

シンガポール創設者

歴史に名を残した人は素晴らしい。人間として生まれ努力し頑張っても後世に名前が伝えられることは殆どない。トーマス・スタンフォード・ラッフルズ（1781～1826年）はシンガポールの創設者として、未来永劫に渡ってその名を賞賛され語り伝えられていくに違いない。

名前が歴史に残るといえることはどうということなのだろうか。私はその一つはその人物が持っている「運」が、最も大きく左右するのではないかと考えている。勿論そこには人並み外れた努力があったに違いない。しかし努力だけではこの世の多くの人々が実行しているのだ。

ラッフルズは14歳の時より英国の東インド会社に勤務。マレー半島のペナン島に赴任。マレー語を習得。その後ジャワ島準知事に任命を受ける。その時にジャワ島の密林に眠るポロブドール遺跡（世界遺産にも指定されているインドネシア最大の仏教遺跡）を発見。これらの功績からナイトの称号（イギリスの叙勲制度において叙勲者に与えられる中世の騎士階級に由来した称号）を授与される。

そしてラッフルズは1819年、東インド会社の書記官として人口わずか150人という島に上陸。この島を支配していたジョホール王国よりシンガポールを譲り受ける。その後、無関税の自由港政策を推し進め急速な発展をとげ、今日のシンガポールの国家の基盤を確立した。誰もが彼を「シンガポールの創設者」あるいは「シンガポールの父」と称賛している。 撮影 2011年夏

